

# 平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	神戸大学	整理番号	a020
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	経営学研究者養成の先端的教育システム		
3. 関連研究分野(分科)  (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 経営学、会計学、商学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (企業経営、経営管理、事業組織、経営財務、経営情報)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([ ]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 経営学研究科・マネジメント・システム専攻〔博士課程前期課程〕 経営学研究科・マネジメント・システム専攻〔博士課程後期課程〕		<u>研究科長(取組代表者)の氏名</u> 櫻井 久勝
	(その他関連する研究科・専攻名) 経営学研究科・会計システム専攻〔博士課程前期課程〕、経営学研究科・会計システム専攻〔博士課程後期課程〕、経営学研究科・市場科学専攻〔博士課程前期課程〕、経営学研究科・市場科学専攻〔博士課程後期課程〕		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>神戸大学は教育憲章において「人間性」、「創造性」、「国際性」、「専門性」を培うことを宣言している。とりわけ、人類の未来を見据えた地域に根ざした高度な国際性豊かな教育研究の実現をめざしている。この実現をはかるために、神戸大学は「国際交流推進機構」、「学術研究推進機構」、「大学教育推進機構」を設置し、全学として組織的に取り組んでいる。特に、本年7月、文部科学省の支援を得て、国際交流推進機構の中に「神戸大学国際交流推進本部」を設置し、国際性に富む教育・研究アプローチを支援する体制を整えた。</p> <p>経営学研究科は、明治35年3月の神戸高等商業学校の設置を源流とし、100年を超える歴史をもつ学術機関として、これまで多数の経営学および商学の博士を輩出してきた。この実績から見ても本事業は、大学院教育の過去の実績を基礎に更なる発展をはかる1つのモデルケースになるものと予想され、とくに社会科学分野の教育体制の整備のあり方について大きな貢献をなしえるものと期待される。したがって本事業が提示する教育プログラムの実現は、本学の全ての大学院教育の実質化をはかり、国際的な高品質を実現するための先導的モデルとして不可欠であり、戦略的に支援する。</p>			

機 関 名	神戸大学	整理番号	a020
5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)			
<p>当研究科は、平成17年の現在まで博士(経営学)を255名に、博士(商学)を88名に授与してきた。課程博士については、平成3年以降だけを見ても博士(経営学)を128名、博士(商学)を39名輩出している。修了者のほとんどが大学の研究職に就いており、そのうち半数以上が博士後期課程修了直後に大学に就職できている。当研究科の修了者の多くは学会で活躍しており、多くの学会賞受賞者を輩出している。また企業に勤務しながら当研究科に就学するものに対しても課程博士を授与するプログラムを早くから開始している。このように、社会人から研究者となる途を切り開いたことは特筆すべきことであると思われる。実際に、社会人から当研究科のプログラムを修了し、大学教員として奉職した者は、各機関の教育、研究活動で中心的な役割を担っている。</p>			
5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)			
<p>まず第一に、研究者養成のためのコアプログラムの高度充実化を図る。上記9-(1)・9-(2)で示すとおりこのコア部分には、実績があるが、絶えざるイノベーションを持続する。具体的には、①コアプログラムの教育を標準化することで、安定的な基礎学力の育成と論文指導を推進する、②課程博士論文の審査のフローを標準化することで、論文のクオリティ・コントロールをはかる、③経営学の基礎教育や方法論教育について、先端研究に対応するように内容を毎年見直し更新する。</p> <p>第二に、このコアプログラムを基盤に、さらなる飛躍のために、研究者養成のためのサポートプログラムを構築する。ここでサポートという意味は、支援・強化すれば、コアの高度充実化をさらに大きく促進できる分野を3つ選んで、そこを育むという姿勢を指している。具体的には、①海外の著名な一流研究者を招聘し、本研究科教員が学生との密度の高いインターフェース役(指導・助言・共同研究の機会作り)となり集中講義や研究会を創出して、課程博士論文の国際化を図る、②課程博士取得間もない若手研究者を、米国におけるポスト・ドクトラル・フェローにあたる立場・職種で雇用することを検討し、継続的な研究指導を手厚く行うことで、彼らの課程博士論文研究の水準を一層高度化させ、国際的な水準にまで引き上げる、③社会人博士後期課程として実務経験と学問的基礎をともに兼ね備えたMBA取得者を積極的に受け入れ、現実と理論を架橋する経営学ならではの実践的研究者育成コースとしての充実した指導を行う。</p> <p>以上のコアプログラムの高度充実化とサポートプログラムの構築により研究者養成を強力に推進するものである。</p>			

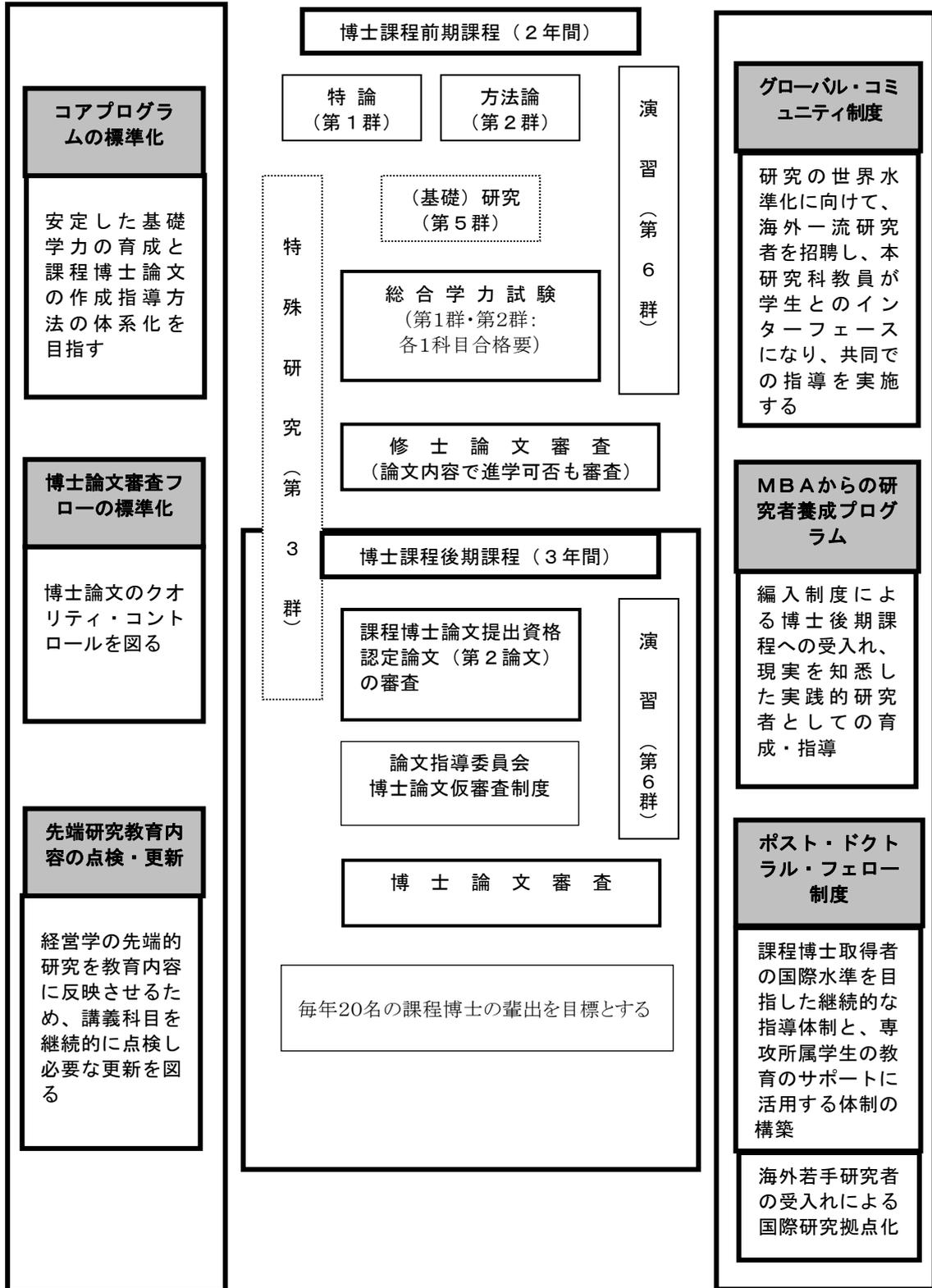
6. 履修プロセスの概念図

: 新規プログラム

コアプログラムの充実化

履修プロセス

サポートプログラム



機 関 名	神戸大学	整理番号	a020
<p data-bbox="165 199 588 232">&lt; 審査結果の概要及び採択理由 &gt;</p> <p data-bbox="165 295 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 490 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 535 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1428 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が非常に優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に十分適合しており、その実現性も高く、一定の成果と今後の展開も十分期待できると判断され、採択となりました。</p> <p data-bbox="189 871 1206 902">なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 965 635 996">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="172 1012 1428 1285" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="172 1012 1428 1144">・これまでの実績に基づき、さらなる発展を目指し、コアプログラム、博士論文審査フロー等の標準化を図るとともに、ポスト・ドクトラル・フェロー制度などのサポートプログラムの構築により、大学院教育の実質化を図ろうとする意欲的な試みであり、今後の成果も大いに期待できる。</li> <li data-bbox="172 1160 1428 1285">・教育プログラムの実現に向けて、実質的効果を挙げるためには、多大な努力を要すると思われ、今後、運営に当たっては組織的取組の推進に配慮しつつ、より独創的な取組の工夫などについても考慮することが望まれる。</li> </ul>			